

ポータルフォリオ 「学びノート」で 学びを見える化

平成28年度大学図書館職員短期研修第6班
テーマ3 図書館と学内他部門及び教員との連携による課
題解決を考える(教育・学習支援)

大学の目標

社会人になっても
自分で学び続ける人を
育てる

現状の課題

- 学生にとって
自分の「情報リテラシー」の習熟度が把握できていない
- 教員にとって
学生の「情報リテラシー」がわかりにくい
- 大学図書館にとって
個別の学生が見えない
個々のイベントの位置づけが曖昧(対症療法的?)

新たな業務として

「学びノート」による 見える化

教育支援システムと一体化した**アプリ**の提案

効果

- 学生にとって
 - 振り返り、積み重ねができ、学び続ける
 - これを受けたら、これ！（スタンプラリー）
- 教員にとって
 - 指導方法の見直し
 - 習熟度別の授業
- 図書館にとって
 - 講習会等イベントの参加率の上昇、イベントの評価
 - 個別の学生の実態の把握

「学びノート」の全体像

- 「情報リテラシー」体系表
 - 学内のイベントを組み込む
 - 学修のロードマップ
- 探索行動
- パーソナルデータ
 - 受講授業データ
- その他機能



学びの見える化

「情報リテラシー」体系表

- 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会「高等教育のためのリテラシー基準2015年度版」活用体系表を基に大学独自の体系表を作成する

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>

- 図書館のイベントを挿入する
- リテラシーに関係する他部署のイベントを追加する
- 学年暦と体系表を連携させる

「高等教育のためのリテラシー基準」 活用体系表

プロセス・行動指標・構成要素	基礎： 与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる	応用： 与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を含んだレポートの作成・発表ができる	発展： 自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文の作成・発表ができる
1. 課題を認識する 行動指標① 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める。 (構成要素) 1.1 自分が取り組むべき課題を識別し、その本質を把握する。 1.2 課題を解決するために必要となる情報を把握する。 1.3 必要となる情報と現時点で持っている情報を比較し、新たに収集すべき情報の範囲を定める。	☐ 課題の意図を正しく理解できる。	☐ 課題に沿ったテーマを設定できる。 ☐ 自分が設定したテーマについて他の人に説明できる。	☐ 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる。 ☐ 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる。
2. 情報探索を計画する 行動指標② 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会倫理的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる。 (構成要素) 2.1 情報の生産と流通の過程を知る。 2.2 情報の種類や特徴を把握する。 2.3 求める情報へのアクセスの方法や入手を支援するサービスを選択する。 2.4 情報を探索する際の合法性・社会倫理への適合性および経済的合理性に留意して適切な方法を選択する。 2.5 情報の適切・効率的な探索を計画する。	☐ 学術情報がどのように生産され、流通しているかを説明できる。 ☐ 一般図書・参考図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。 ☐ 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。 ☐ 著作権法・個人情報保護法など、情報を探索する際の適法性に留意できる。	☐ 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる。 ☐ 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。 ☐ ひとつの事柄に対し、複数の情報源で確認することができる。 ☐ 各種施設（博物館・公共図書館・文書館・美術館・行政機関等）の特徴を説明できる。	☐ 専門分野における学術情報の流れを説明できる。 ☐ 信頼性の高い情報を選択できる。 ☐ 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる。
3. 情報を入手する 行動指標③ 探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する。 (構成要素) 3.1 探索計画に従って情報入手を支援するサービスを効果的に利用する。 3.2 検索ツールを使って必要な情報を適切・効率的に検索する。 3.3 必要な情報の範囲に照らし合わせて適切な情報・取捨選択する。	☐ 所属機関の図書館の蔵書検索ツール（OPAC）を利用し、指定された資料を検索できる。 ☐ 図書館における資料の配置・分類法を説明できる。 ☐ 与えられた情報源を検索できる。 ☐ 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。	☐ 課題に応じてメディア（図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源）を選択し、情報を収集できる。 ☐ 文献検索の検索語（同意語・上位語・下位語）を工夫できる。 ☐ ブール演算子（AND・OR・NOT）を利用できる。 ☐ データベースを活用し、必要な情報・資料を検索できる。 ☐ 情報の出所や信頼性を点検・確認できる。 ☐ 情報ニーズに合う文献を効率的に選択できる。	☐ 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる。 ☐ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる。 ☐ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する 行動指標④ 収集した情報を批判的に分析・評価し、情報・整理・管理する。 (構成要素) 4.1 収集した情報を信頼性、関連性、正確性・真正性などの点から批判的に分析・評価する。 4.2 情報を適切に記録し、その後の効果的・効率的な活用のために整理・管理する。	☐ 学術的な文章の要旨をまとめることができる。 ☐ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。	☐ 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる。 ☐ 過去の情報と新たに入手した情報の違いを比較できる。 ☐ 資料リストを作成し、管理できる。	☐ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる。 ☐ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる。
5. 情報を批判的に検討し知識を再構築する 行動指標⑤	☐ 入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの新たな見解や考え方を導き出すことができる。	☐ 複数の情報、データおよび意見を比較して、自らの考え方や見解を導き出すことができる。	☐ 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として整理し、自らの新たな見解や考え方を導き出すことができる。

イベントカレンダー

OPAC講習会(4月)

探索行動(任意機能)

- 検索キーワードとヒット件数を基に探索行動を記録
- 記録を基に図書館員が適切なキーワードをアドバイスする



The screenshot displays a library search interface. At the top, there's a search bar with the text "情報リテラシー" (Information Literacy) and a search button. Below the search bar, there are tabs for "蔵書検索" (Collection Search), "論文検索" (Article Search), "蔵書・論文+" (Collection/Article+), "貴重資料画像" (Valuable Material Image), "他大学検索" (Other University Search), "横断検索" (Cross Search), and "KURENAI". The "蔵書検索" tab is selected. To the right of the search bar, there are links for "マイフォルダとは" (What is My Folder?), "アラートとは" (What is Alert?), "検索条件を登録" (Register Search Conditions), and "検索アラートに登録" (Register for Search Alert).

Below the search bar, there's a section for "絞り込み検索" (Refined Search) with a sidebar on the left. The sidebar has two sections: "資料種別" (Material Type) with "図書 (235)" (Books (235)) and "電子ブック (1)" (Electronic Book (1)), and "所蔵館" (Holding Library) with "吉田" (Yoshida) and its sub-items: "附図 (194)" (Supplementary Figures (194)), "吉田南 (53)" (Yoshida Minami (53)), "文 (2)" (Literature (2)), and "文 (2)" (Literature (2)).

The main area shows "書誌検索結果一覧" (Bibliography Search Results List) with "1件~10件 (全236件)" (1 item ~ 10 items (Total 236 items)). There are buttons for "印刷" (Print), "簡易表示" (Simple View), and "詳細表示" (Detailed View). Below this, there are buttons for "全て選択" (Select All), "ブックマーク" (Bookmark), "出力" (Output), "メール" (Email), and "文献管理" (Literature Management). There are also dropdown menus for "タイトル昇順" (Sort by Title) and "10件" (10 items).

The search results are listed in a table with two columns: "No." and "Title". The first result is "21世紀を豊かに生きるための科学技術の誓" (Vow for a Rich Life in the 21st Century through Science and Technology) by 北原和夫 (Kazuo Kitahara), published in 2008. The second result is "3.11後の放射能「安全」報道を読み解く：社会情報リテラシー実践講座" (Understanding the 'Safety' of Radiation after 3.11: Social Information Literacy Practical Lecture) by 影浦映著 (Ei Kageura), published in 2011.

パーソナルデータ

- 教育支援システムと連携
- 生涯学習

「学びノート」機能と効果

- アンケート
 - イベントの評価、食べログ的な宣伝
- イベントの予約
- 読書記録
 - 読書通帳、ブックログなど
- 交流の場
 - 受講者同士、これから受講する人、図書館員

連携先

アプリ
開発会社

教務課

学 生

図書館

学びノート
アプリ

教 員

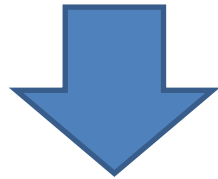
留学生
センター

ライティング
センター

T A

連携の中で起こりうる障害 ボトルネックと解決策

- 連携先との相互理解の不足
 - 他部署「こっちも忙しい」
 - 学生「めんどくさい」
 - 教員「それ、メリットあるの？」



- 大学としてのミッションを共有する
- 自らの業務を説明できる
- 連携先に求めることをはっきりさせ、それにより図書館ができることを提示する

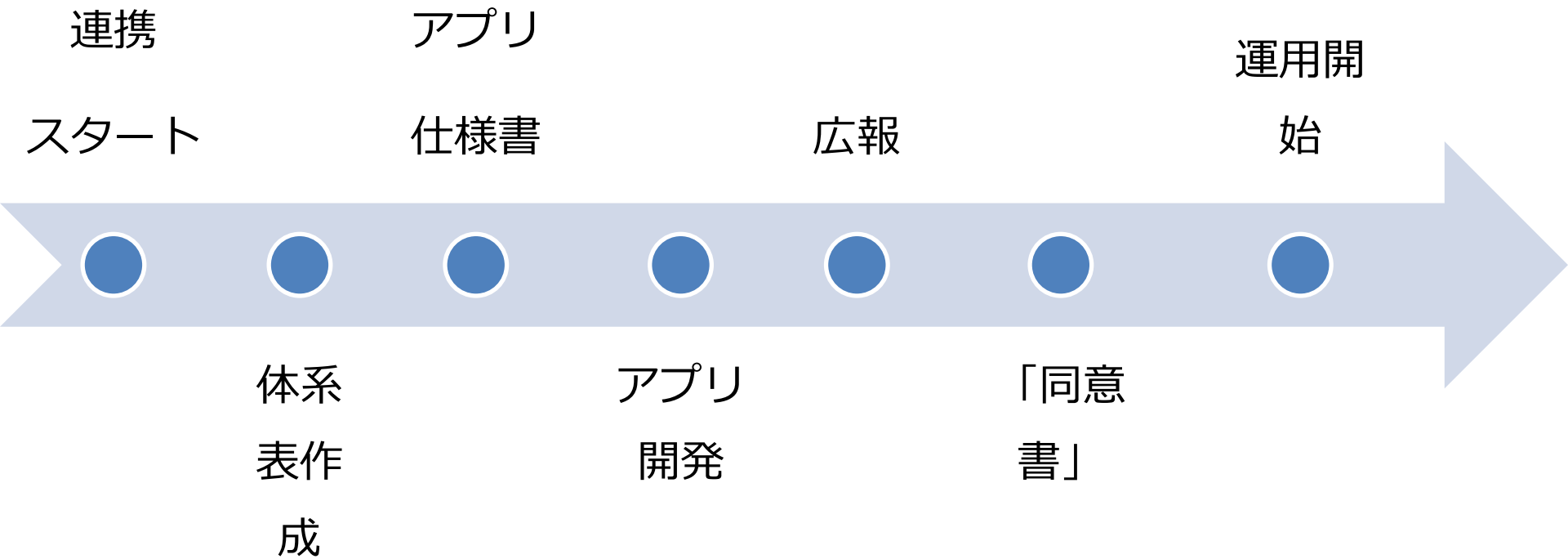
アプリの運用上の課題と解決策

- 個人情報の運用
 - 個人のログをとること：「同意書」をとる(新入生・在校生)
 - 図書館がログを利用すること：アプリ上の「説明書」を読んだ上で押せる「同意ボタン」を設置

アプリの運用上の課題と解決策

- アプリを使うメリット
 - アプリの義務化
 - ゲーム化(隠れモンスター、レベルアップ)
 - スタンプラリー制
 - 相乗効果(SNS)

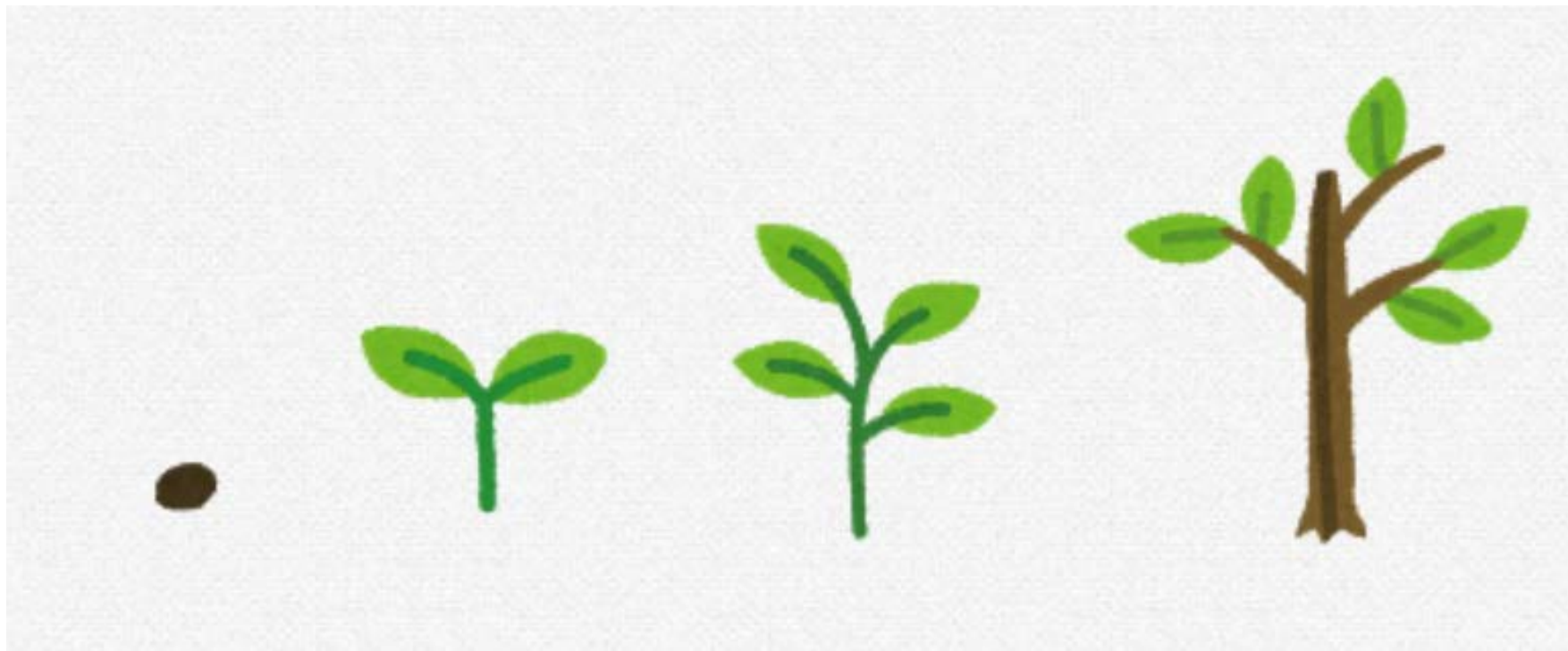
ロードマップ



- 広報

- リポジトリでのノウハウや教員とのつながりをい
かす

まとめ



一回生

二回生

三回生

四回生